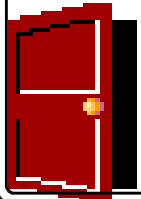


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年10月17日 文責 渡邊

これからの学びで「メタ認知能力」の育成は大切です！

さて、今回は前号で紹介した図書『勉強できる子は〇〇がすごい』（榎本 博明 日本経済新聞出版 2022年7月）から、「メタ認知能力」について説明したいと思います。

メタ認知とは、自分の認知について客観的に俯瞰し、現状を評価し、さらには必要に応じて修正するなど、認知活動をモニターしたりコントロールしたりすることを指す。（P18）

具体的な事例として、次のように述べています。

★自分にとっての課題を把握する

自分自身を振り返り、勉強にしろ、友達関係にしろ、順調にいつているか、何か問題がないかを評価するのも、重要なメタ認知と言える。

メタ認知が適切に働いていれば、自分の現状を正確に把握し、問題がある場合は必要に応じて改善のための対処行動を取ることができる。

成績が悪いのに、平気であっけらかんとしている子は、小さい頃は無邪気てかわいらしいなどとみられることもあるが、うまくいつていない自分と向き合うことがないため、何ら対処行動は取られず、どんどん遅れていくことになりがちだ。（中略）

何かうまうまいつていなかったり、行き詰まりを感じたりして、思うようにいつかないとき、そんな自分を振り返って、なぜうまうまいつかないのか、どこに問題があるのかの見当をつけることができれば、改善策を模索することができる。

でも、振り返ることがないと、うまくいかずに嫌な気分になったり、投げやりになったりするばかりで、状況は改善されないどころか、さらに悪化してしまう可能性が高い。あるいは、うまくいつていないこと自体に気づいていなかったりする。

そこで大切なのは、自分をしっかりと振り返り、自分の現状に問題があり、改善する必要があるということに気づくことだ。これもメタ認知の一種である。（P27. 28）

前回、江川教諭の1年生の音楽科の授業「世界に一つだけのわたしの音」を紹介しました。この授業では、子供一人一人が学習課題を設定し、その解決に向けて五感を働かせて体験的に学び、ときに友達と協働でその解決にあたりました。また、文字での振り返りを行い、自分が学んだことを見つめ直すことで、自分が成長したことや課題を見だし、これからの学びに生かしていきました。



【1年生の授業の様子】

これはとても大切な学びの在り方です。正解を求めることも大切な学びですが、自分が納得いく答えを自分なりに見出す学びがこれからの時代に生きる子供たちには必要となるのではないのでしょうか？

さて、読書との関わりについて榎本氏は、次のように述べています。

そこで威力を発揮するのが読書だ。読書によって自分や自分の親とはまったく異質の作者や登場人物の視点に触れ、「そんな目にあっている子もいるんだ」「子供なのにそんなふうに考えたりするんだ」「こんなこと、僕には思いつかないなあ」「ウチの親と全然違うなあ」「ああいう家で育ったら、僕はどんなふうになっていたろうか」

「僕にはそんな勇氣はないのに、すごいなあ」「こんな子が友達だったらいいなあ」「世の中にはいろんな人がいるんだなあ」などと思いながら、自分以外の視点を取り込んでいくことができる。

読書を通して、作者や登場人物のありとあらゆる視点に触れることができる。それによって自分の視点を相対化することができる。

読み始めた頃は、「なんでそんな意地悪をするんだろう」「どうしてそんなふうにはひねくれて考えるんだろう」「どうしてあんなふうにはやさしくできるんだろう」「なんであんなふうには頑張れるんだろう」などと不思議に思い、理解できなかった登場人物の気持ちが、しだいにわかるようになってくる。

はじめのうちは作者の考え方に馴染めなくても、共感しながら読めるようになってくることがある。それは、読み進めていくうちに作者の視点を取ることができるようになってきたからだ。必ずしも同意するわけではなくても、たしかにそういう見方もできるなど思えてきたりする。

読書により多様な作者や登場人物の視点に触れ、それを自分の中に取り込んでいくことで、人の気持ちがわかるようになり、自分自身の偏りにも気づくことができるようになる。それと同時に、物事を多角的に検討し判断することができるようになっていく。

そのように自分の視点を相対化するメタ認知の発達は、自分の学びを振り返るという形で、学習活動の現状と課題を把握し、必要に応じて学び方を修正していく姿勢につながっていく。

読書をする子ほど成績が良いというのは多くの調査データで証明されていることだが、それには読書によって語彙力や読解力が高まるだけでなく、メタ認知能力が働くようになることも関係している。(P33～P35)

これまで読書の有効性についてはいくつか紹介してきましたが、「メタ認知能力」の育成に読書が大きく関わることは自分にとって新たな知見となりました。

読書活動に励んだからといってすぐに効果は現れることは難しいでしょう。しかし、子供たちが成長し、中学生、高校生、大学生、そして、社会人になったときに読書に励んだ成果が現れてくることと思います。

しかし、「読書は難しい」、「嫌だな」と子供たちが感じてしまったら台無しです。大切なのは、「楽しい」、そう「エンジョイ、読書！」です。二学期も学校と家庭、地域社会が連携し、読書活動の推進に取り組んでいけることを願います。どうかご理解、ご協力をお願いします。

----- 切り取り線 -----

「読書活動の扉を開く」(10月17日号) を読んでの感想

() 年 ()